平成 29 年 3 月

事務所便り 第 100 号

～人に動いてもらうには～

この話は、当社が管理するある賃貸物件の一部屋で行われたリフォーム工事の一場面である。私は、工事管理人兼デザイナーの役割を担っていた。その任務は、賃貸物件の個性を見抜き、デザインの力によってそのパーソナリティを輝かせることである。

その部屋は、2LDK であった。いわずもがな、この住宅を特徴付ける最も重要な要素は、LDK 空間である。そして、LDK の印象を決めるうえで最も重要なのがキッチンのデザインである。そのキッチンには、ちょうど今頃の、春の晴れ渡った空を思わせるようなスカイブルーの綺麗なタイルが貼られていた。ところが、そこには直径 3mm 程の黒いビス穴が 4 つ存在していた。キッチンを入れ替えたときに一緒に撤去した水切り棚を固定するためのビス穴である。僅かではあるが、まるで虫がついているようで、何とも釈然としなかった私は、その部分を含む数枚のタイルを剥がして、そこだけモザイクタイルにしようと考えた。それで、リフォーム屋の親方に作業を依頼した訳である。

作業は数日の後に完了した。ところが、モザイクの隣の既存のタイルに、少しだけ罅（ひび）が入っているのである。どうも剥がすときに過って割ってしまったらしい。今更どうすることもできないのは分っているが、私は親方に、「どうしてくれるのだ！」と思わず詰め寄った。と同時に、「もう数枚剥がしてモザイクを埋め込めばよいではないか」と考え、再び親方に作業の依頼をした訳である。罅は、君達の腕が未熟なために生じた現象で、責任をとってやり直してくれたまえ、と言わんばかりに。

ところが、剥がすときにまたしても罅が入ってしまったのである。君達は本当にプロなのか、そんな仕事をして職人として恥ずかしいとは思わないのか。私は、心の中でそう呟きながら、「（もう君達には頼まん）自分でやる！」と宣言してしまったのである。

度重なる失敗のせいでモザイクの範囲が拡大したため材料が足りなくなり、私は、新しく七色のタイルを調達した。早春の青空に架かる虹をイメージに、私はタイル貼りの作業に取り組んだのである。

何時間かかったのだろうか。終わったときには夜の 10 時を過ぎていた。そして、その出来栄えは…。正に晴天の霹靂（へきれき）、私が貼ったモザイクは、青空に突然現れた黒雲の渦みたいに、何だか不吉な予感さえ感じさせられるような惨憺（さんたん）たる仕上がりであった。私は、呆然と、見るともなくその黒雲を眺め、暫くその場を立ち去ることができなかったのである。

さて、失態の原因は三つ存在する。一つは、人に動いてもらうには、気持ちよく引き受けてもらわなければならないということである。そうでないと、良い仕事をしてもらうことはできないのである。もう一つは、そもそもそれができない人に頼んではいけないということである。頼む側は、それを見極めねばならないのである。そして最後に、やれば何でもできる、という思い上がった考えは捨てることだ。私には、そのいずれもが欠落していた訳である。

今、私の不毛な努力の結晶である黒雲には、大家さんの鶴の一声で、純白のキッチンパネルが被せられている。両側をスカイブルーのタイルに挟まれたそれは、まるで青空に気持ちよく漂う白雲のようで美しい。「ここで練習できたでしょう」、大家さんから私への一言である。大家さんは大したものである。私は、本当に面目ないのである。

株式会社 東昭エンタープライズ
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-33 ニシダ第一ビル 3 階
TEL.03(3357)6572 FAX.03(3357) 6573
http://www.t-enterprise.co.jp